

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

ほとんどの内容，問題形式で全国平均を上回っている。特に，記述式の問題形式は全国平均を大きく上回った。また，昨年度同様，短答式や記述式の問題において，無解答率が低い点も良い点である。

課題としては，問題文の全体を理解できていないまま，一部の言葉や文章だけを切り取って判断して解答している児童が多かった点が挙げられる。また，問題文が複数ページに渡る問題では，正答率が低くなっている。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

すべての領域，問題形式で全国平均を上回っている。特に，「図形」や「データの活用」の平均正答率が高かった。また，国語同様，全体的に無解答率が低く，記述式の問題形式の正答率も高くなっている。

課題としては，国語同様，問題文をよく理解せずに解答し間違えている児童が多かった点である。問題文の中には，解答するのに必要な情報とそうでない情報があるため，問題文や資料を正確に読み取る力が必要である。

<理科の調査結果に見られる特徴と現状>

ほとんどの領域，問題形式で全国平均を上回っている。特に，B区分の「生命を柱とする領域」や「地球を柱とする領域」の平均正答率が高かった。また，児童質問紙調査の回答から，国語や算数の勉強に比べて，理科の勉強は得意だ，好きだと回答した児童が多かった。

課題としては，記述式の問題形式の正答率は全国平均を下回り，国語や算数と違って無解答率は高くなっている点である。また，算数同様，問題文や図，実験の条件などを正確に読み取り整理して解答する力が求められる。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

教科を中心とした学力・学習状況においては，半数以上の区分で全国平均を上回っている。特に，「主体的・対話的で深い学び」，「算数の学習活動」については相対値が高かった。一方で，「国語に関する意識」，「国語の学習活動」については相対値が低かった。

その他の学力・学習状況においては，ほとんどの区分で全国平均を上回っている。特に，「生活習慣」，「総合・学級活動・道徳」については相対値が高かった。一方で，「学習習慣」，「自己有用感等」については例年低い傾向にある。

＜これからの具体策＞

（授業における具体策）

- ・校内研究として、「読み取る力の育成」をテーマに授業研究を進める。
- ・全校で統一して文章読解ドリルを購入し、朝学習で取り組む。
- ・読書の時間を十分に確保する。（並行読書、ブックトークなどの工夫）
- ・情報量が多い問題も取り入れる。
- ・四則計算の交じった計算問題など、算数に限らず複合的な問題も取り入れる。
- ・問題自体は簡単だが、よく読まないと間違えてしまう（引っ掛け問題）問題も取り入れる。
- ・まとめを書かせる際に、いくつかの条件をつけて書かせる。
- ・新しい学習アプリを有効活用していく。
- ・引き続き、分かりやすい授業を目指して、教材研究を進めていく。

（その他の具体策）

- ・地域学校協働活動推進委員や社会福祉協議会等に協力を依頼し、月2回の放課後学習教室を実施する。また、授業中の学習サポートをお願いする。
- ・保護者が参観できる機会を設けていく。
- ・SSW、SC、相談室、校内教育支援教室等との連携やコミュニケーションを大切にし、多くの目で児童を見ていく。